

重点施策 4 教育環境条件の整備充実

【施策方針】

- 子どもたちにとってより望ましい教育環境の実現のため、平成30年2月に策定した八幡浜市学校再編整備第二次実施計画に基づき、小・中学校の学校規模の適正化による望ましい児童生徒数による教育効果の向上を図る。
- 科学的な知識、技能及び創意工夫の能力を養うため、理科教育備品の整備を図る。また、引き続き、教材、管理備品、学校図書などの学習環境の整備を図るとともに、健康及び環境保全上の効果を増進する。
- 市内の学校施設の多くは築後30数年が経過し、雨漏り、施設の老朽化、内外装の損傷が著しく、早急な対応を迫られている。
- 経済的な理由により就学が困難な児童生徒等を支援するため、就学援助事業及び育英事業の充実を図る。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学校再編整備第二次実施計画の推進 ② 学校施設の整備充実
- ③ 教育機器の整備充実 ④ 施設の耐震化推進 ⑤ 長寿命化改良事業の実施
- ⑥ 就学援助事業及び育英事業の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 学校再編整備第二次実施計画の推進

ア 園児、児童、生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が年々進行しており、学級数の減少や完全複式の学級編制で取り組む学校がある現状となっている。また、校舎等の耐震化、施設設備の経年劣化問題などを抱えており、安全・安心な教育環境の整備・充実を図ることが継続の課題であり、今後も早期解消に向け取り組んでいく。

イ 平成30年2月に策定した八幡浜市学校再編整備第二次実施計画（平成30年度から令和9年度まで）について、前期5年の計画期間内に、児童生徒数の動向、施設の状況及び前期計画の進捗状況等を踏まえて、後期5年の具体的な再編・統合の枠組みを八幡浜市教育委員会で検討し、後期計画（令和5年度から令和9年度まで）を策定した。今後は、この後期計画を基に説明会を実施し、保護者の理解を得られるよう丁寧な説明を行っていく。

② 学校施設の整備充実

ア 愛宕中学校体育館改修工事 40,324 千円、千丈小学校大プール修繕工事 13,242 千円等の営繕工事を行った。

イ 小学校遊具改修工事（神山小、千丈小、日土小、川之石小）4,730 千円を実施し、緊急性の高い遊具を改修した。

ウ 双岩小学校トイレ洋式化工事 449 千円、川上小学校トイレ洋式化工事 248 千円、

保内中学校トイレ洋式化工事 737 千円を実施した。なお、今後は長寿命化改良工事等の大規模工事に併せて洋式化を推進していく。

③ 教育機器等の整備充実

ア 理科教育備品の整備（中学校）3,741 千円（1/2 国庫補助）

イ 教材・管理備品・学校図書等の整備 18,981 千円（前年度 32,353 千円）

（小学校）11,551 千円 （中学校）7,430 千円 （アの理科教育備品を除く）

④ 施設の耐震化推進

ア 非木造の学校施設については、耐震化率 100%であるため、令和 4 年度は耐震化事業について未実施。

⑤ 長寿命化改良事業の実施

ア 小・中学校長寿命化改良事業

長寿命化計画（実施計画）に基づき、計画的に施設の長寿命化を図っていく。

令和 4 年度は、喜須来小学校校舎長寿命化改良工事 729,648 千円を実施した。

⑥ 就学援助事業及び育英事業の充実

ア 就学援助事業

要保護・準要保護児童生徒に対し、学用品、修学旅行等の費用の支給を行った。

また、新入学児童生徒に対して支給している「入学準備金」については、平成 29 年度新入学児童生徒分から、入学前の 1 月～3 月に支給を行っている。

イ 育英事業

八幡浜市育英会奨学資金の状況

奨学資金貸与者 0 件

返還者 48 名、返還額 6,043 千円

【事務事業点検評価委員意見】

○ 少子化の進行を背景に、学校の小規模化に伴う課題がこれまで以上に顕在化している。またハード面においては、市内の多くの学校で老朽化が進み、施設の長寿命化改修や建替え等を検討する時期を迎えており、実際に校舎や体育館の長寿命化改修が計画的に進められている。そうした背景の中、教育委員会では、「八幡浜市学校再編整備第二次実施計画」に基づき、最適な規模で最大限の機能を発揮できる教育環境を実現するために様々な対策を講じ、慎重かつ計画的に取り組んでいる。今後も、子どもたちにとってより望ましい教育環境を提供するという観点から、再編整備や再編整備に伴う通学支援などに取り組んでいただきたい。

○ 学校は、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていく場であることから、一定規模の集団を確保する必要がある。また、学習活動の特質に応じて学級を越えた集団を編成したり、人間関係の固定化や序列化が生じないようにしたりするためには各学年でクラス替えができるようにする必要がある。市内の全ての児童生徒に平等かつ質の高い教育を行うためには、学校規模を適正化し、小規模校が抱える学校規模に起因する様々な教育課題を解決することで、全ての学校が教育効果を発揮できるようにする必要があると考える。

- 学校の持つ地域コミュニティの核としての性格や、防災、保育、地域の交流の場等にも配慮しながら学校の必要性を検討していく必要があるが、今年度実施を計画されている学校再編整備実施計画保護者説明会では、あくまでも次世代を担う子どもたちの立場に立ち、子どもたちにとってよりよい教育環境を提供することを最大の目的として再編整備を行うことを強調していただきたい。その際、規模の大きい学校の良さやメリットを強調するだけでなく、教職員による児童生徒一人一人の把握が難しくなったり、学校行事や部活動等において児童生徒一人一人の個別の活動機会を設定しにくかったりするなど、規模の大きい学校ならではの課題についても真摯に説明する必要がある。その上で、再編整備後の対策や方針を明示し、保護者や地域住民が抱く不安要素の払拭に尽力していただきたい。
- 次代を担う子どもたちの教育環境を整備するため、市には、耐震・防災機能の強化を始め、情報教育の推進、地域の生涯学習への開放など、新しい時代に対応した学校施設の整備に積極的に取り組んでいただいております。心から感謝しています。今後も、学校施設を長期にわたり有効に活用するため、老朽化した学校施設の適時適切な維持管理や補修を実施していただきたい。あわせて、地球環境への配慮やバリアフリー化、健康の推進など現在の教育的ニーズに応じた施設整備にも努めていただきたい。
- 家庭の経済的背景と子どもの学力や進学機会等には相関関係がみられるとの指摘がある。また、学歴等により生涯賃金にも差がみられ、今後も貧困の連鎖、格差の拡大・固定化が生じる可能性がある。その傾向は、特にコロナ下において加速・深刻化していることから、学校を子どもの貧困対策のプラットフォームと位置づけ、関係機関と連携した切れ目のない支援を進めていく必要がある。教育委員会には、貧困等の生活上の課題を抱える子どもや家庭を支援するため、SC、SSWについて人材の確保及び拡充に努めるとともに、学校や保護者に対してSC、SSWによる支援の事例等を紹介し、子どもたちへの支援が適切に進むようその役割や業務への理解促進を図っていただきたい。

【自己評価】

- 八幡浜市学校再編整備第二次実施計画の後期計画では、子どもの数が減少している中で、子どもたちにとってより良い教育環境の整備を第一に考え、そのための方向性を示し、学校統合に向けて保護者や地域住民の理解を得ながら進めていきたい。なお、関係機関と連携しながら、より安全な通学路や通学支援について検討していく。
- 子どもたちの教育にとって、集団生活の中で互いの良さを吸収し合いながら成長していくこと、切磋琢磨して成長していくことがとても重要だと考えているので、学校規模の適正化のための学校統合を進めていきたい。
- 学校統合により、部活動の練習場所の確保が必要になるが、部活動の地域移行の絡みもあるので、関係機関と話し合いながら、より良い方法を提示していきたい。また、学級編制をする際には、小規模校の子どもたちへの配慮をしていくなど、保護者の不安を解消していきたい。
- 限られた予算の範囲ではあるものの、児童生徒・教職員の安全を確保するため、緊急性の高いものから随時修繕を行っており、さらに今後は、破損・劣化が軽微な段階で対応することで、長期的な使用ができるよう管理していきたい。また、八幡浜市学校施設長寿命化計画

に基づき、長寿命化改良工事を行っているが、劣化状況等によっては、計画の前倒しも必要と考えている。

- 貧困と学力や進学の関係はご指摘のような報道もされており大切な課題であると認識している。この問題は学校だけで解決できるものではなく、関係諸機関と連携し取り組んでいかなければいけないと考えている。SCとSSWの人材確保と拡充については国や県と連携しながら必要数を確保していき、保護者への周知も引き続きしっかり行っていきたい。